



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第46号

2017年8月23日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.25

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

浅部SPさんの成長 SPの成長が私たちの喜び

大学2年生のSPで、浅部さんという人がいます。昨年、1年生のときに、夏のわくわく算数教室に来てくれました。大学1年生と言えば、少し前までまだ高校生。教わることばかりで、何かを誰かに教える、という経験は皆無だったことでしょう。大学生になり、教職を志し、東浦の学生ボランティアの門をたたいてくれてから1年…。



写真の左側が浅部SPさんです。堂々としています。表情も振る舞いも、子どもとの接し方も。浅部さんは、昨年のわくわく算数教室では、緊張もあり、だいぶ大変な思いをしました。今でも私は、そのときの浅部さんの姿が頭に残っています。緊張で笑顔が出ず、ただ見守るだけ。子どもとの関わり方もまだ分からず戸惑っていました。「自分から門をたたいてくれたとはいえ、ちょっとつらい経験をさせてしまったな…」と、内心思っていました。

浅部さんは、その後、2学期から、片葩小のWSPにも参加してくれました。ここで一気に成長しました。何でも全力、何にでも取り組みました。子どもとの距離感も、少しずつ分かってきて、積極的になりました。日に日に成長しました。目にみて分かるくらいでした。12月、大放課に運動場を全校で走るという週間がありました。浅部さんは、子どもと一緒に走っていました。寒い日だったのに汗をかき、気持ち良さそうに汗を腕でぬぐっていました。表情も晴れやかになり、笑顔が多くなり…。「大学生って、こんなにも成長するんだ、こんなにも変わるんだ」。教育現場では、子どもと関わり、現場感覚を磨くと大きく成長する、このSP事業は、すごいことをやっているんだな、とも感じました。

そして、この日のわくわく算数教室。正直、浅部さんの名札を見るまで、別人だと思っていました。「えっ？浅部さん？すごいじゃん。堂々としてきたね。びっくりした！」と思わず言っていました。こういう学生さんの「成長」を見ることができるのは、本当に幸せです。きっといい先生になります。たった1年間でこれほど成長できるのですから。SPさんの成長が、私たち、関わるスタッフの喜びになっています。